

詩篇 第63編 1～3節

ダビデの賛歌。彼がユダの荒野にいたとき、と紹介されている。地位も名声も力も財もすべてはく奪された地に立たされる。外部からいのちを狙う者があり、肉親のうちから現われる敵対者から逃れ荒野に立つとき歌う。

何もかも失い、無防備にされ、いのちの危機になくてならないものが問われる。ただ一つの必要なものを問う。その、ただ一つ必要なものは何か荒野の危機で問われる。ただ一つ、求めるべきもの、は何かを問わなくては荒野の危機で立つことができない。

ただ一つ、求めるべきものは、自分のいのちではなかった。自分のいのちにしがみつけばしがみつくほど、荒野の危機が恐怖となり、自分を押し潰す。自分にこだわり、しがみつくと、その執着心がかえって重荷となる。

彼は歌う。「あなたの恵みは、いのちにもまさるゆえ、私のくちびるは、あなたを賛美します。」荒野が聖所となり、賛美のなかで、「神よ。あなたは私の神。」このお方を、あなたと呼び、唯一求め慕う主なる神を仰ぎ見る。

あらゆるものがはく奪された荒野の危機でこそ、唯一求め仰ぐ、主なる神に出会う聖所が現れる。ハレルヤ！